



□近藤 公康□

▷私のリスニング・ルーム◁

□第110回□

青春の情熱を注ぎこんで10年

4 畳半に 5ch5way 装置 を詰め込む

ちよいと出ました三角野郎が、四角四面のヤグラの上でを地でゆくように、今回まかり出ました私、しばらくおつき合いの程をお願いします。私が編集部より出ないかと誘われたのが2月、この2月はニッパチの1つで、ラ技もネタが不足していたのでしょね。

1. 原点よりの告白

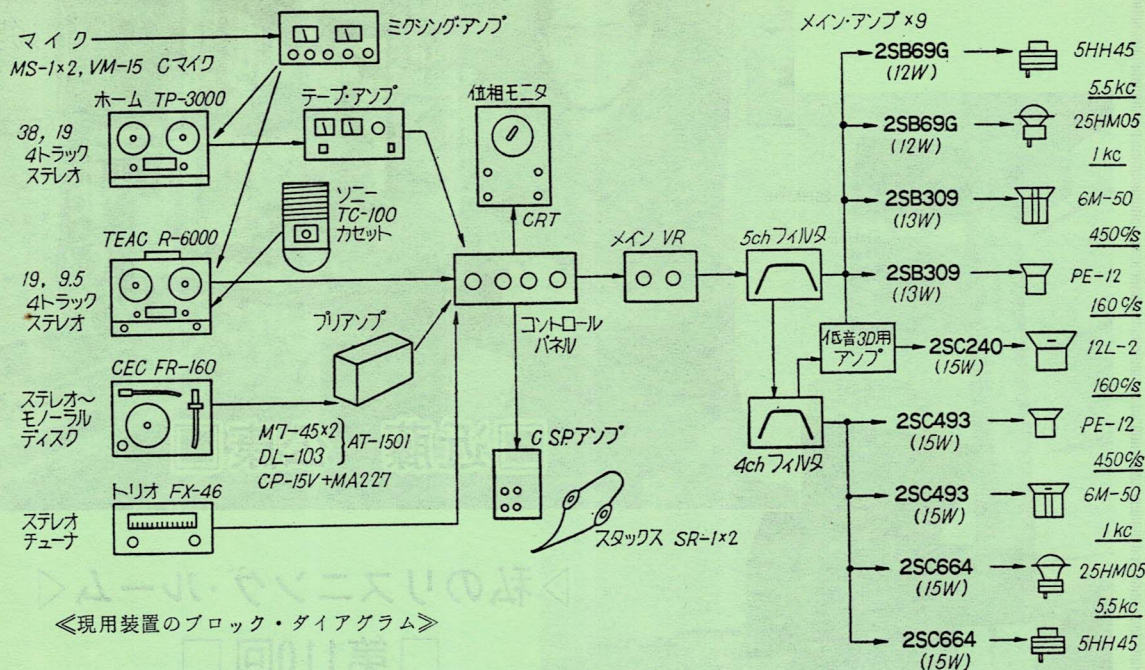
私の装置はこの1年間に急速に進歩した。ガン細胞にみられるように、緩慢な進行が急にイキイキとその速度を早める裏には、何等かの刺激が加わったり、パニックがあったにちがいない。私もそうであった。約1年半程前に三橋達也氏の音を聞いた事に始まる。

豪華なシステムとリスニング・ルーム、見る程に聞く程にタメイキをつき、イイ気持で帰路についた。だが、自室の扉を開いたとたん、今までの酔いはすっかりさめ、現実の自分の姿にもどされたのである。寝床に入って、どうしたら「イイ音」が出せるのだろうか

考えたが、まもなく重大な壁につき当たったのである。すなわち下宿生活なる身であるから、勝手に室を改造できないことであり、消費電力の僅少なることを暗黙のうちに要求されていたのであった。大きなユメがだんだんと縮小し、ついにはヤケッパチ気味になった。「こんな4畳半じゃどうしようもないヤ」「オーディオ屋、金とヒマが無かりけりか」「それにあんな美人の奥さんもいない……」おっと余計だった。やがて気を取り直し、その束縛をいかに逃がれるか努力したのが今日の姿であり、青春の貴重な時間を注ぎ込んだ情熱の産物でもあり、いわば「我が闘争」の近藤版であるわけです。

2. オーディオ屋というもの

「父なる神と神の子は一にして二にあらず、父と子は同体であり、子は父と同体である」と日頃信者の前で説教するのが役目であったエマーソンは、ある日こんなことをつぶやきました。「我等の世界には何か困



果応報の関係があるにちがいない。潮の満干、磁石のNとS、男女の性、相反するものが互いに引き合い合成して、初めて完全になる。これすなわち2元論のじゃて！」

さて、オーディオの諸形態にこの2元論をあてはめてみるならば、システムの方角づけはおのずから決まるにちがいない。雑な例を出すならば、その日暮しの身でありながら、1台10万円ナリのデンチクを買ったといった類は、日頃の彼氏の鬱積が昇華したものであり——これを欲求不満の代償行為という——別のいい方をすれば、ミエッパリといえるのである。このような形でフラストされていればまだしも、ひどいのになると、他人をうらやむばかりでなく、理論(!)が逆転して何かにつけてジャマしようとする(よくあることです)。

しかし、真にオーディオの好きな人は、何もミエで高い部品を集めているのではなく、目的は1つ、良い音のためであろう。Good Reproduction のためには日夜精励刻苦、壁に穴あけるのも床をぶち抜くのも、すべて山がそこにあるからであり、たとえ外観が粗末であるにせよ、内容さえ良ければ……と頭が一杯なのでありましょう。それ故にどの人も善人そのものといえるのでしょ

3. 小さな歴史

オーディオに興味を持ってから約10年になる。中学3年の時、雪村イズミのEP盤を聞いてから、すっかりハイファイにとりつかれてしまった。それに加えて高校時代の放送部での生活は、これに火をつけてしまった。この時代に当世流行のウィリアムソンやアルテック形で3ch-3wayを作り、札幌より東京に出てきてからの数年間は、基本的な変更なく過してきたのであります。その間ステ

レオになったりしましたが、何んといってもクラブ活動に精力を取られて、オーディオはおろそかになってしまいました。やがて時は過ぎ、ある日突然に、「私が目をさましたら急に」大決心をしたのです。

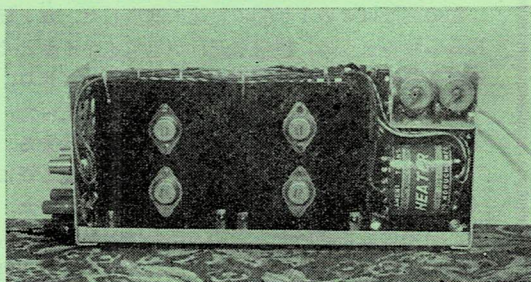
4. 賽は投げられた

写真はまたヒドイ姿をお目にかけたと思うが、普段は電灯を消して聞いているのでして。

さて、ラ技が中心となってキャンペーンした、マルチチャンネルも、やっと最近になってメーカーも商品化する段階になったことは、喜ばしい限りです。この時勢に立って「よし俺は5チャンで行くぞ、これ以外に生きる道はない(オーバかな)」と決心させたのであります。

しかし、5チャンの資料は大変少なく、 f_c やアンプ、SPの構成には大いに頭を悩ませました。

良い音を出すためには、さまざまな道があるにちがいない。1本5万円ナリのトゥイータを使う、10万円のアンプを買う、MFBをかける、オール・ホーンにする……しかし、プロサラ(プロレタリアート・サラリーマンの略)の身であることを考えるならば、5チャンネルが最も



《2SB69メイン・アンプの右側面》

効率が良く、また手近に良い音を出せそうに考えました。

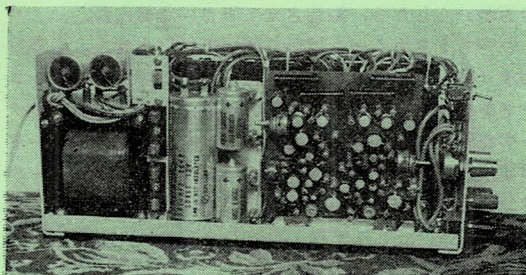
石を使うことによってアンプ単価の低減と、空間占有率と消費電力の極端な減少化がはかられる事実によって、安いアンプを何台か使用して、SPの最も良い部分を活用してゆく考えに致達したのであります。

5. これぞ集中制御

マルチチャネルのメリットは、何よりも“パズルのようなSP組み合わせ”からの自由であり、1台のアンプに諸特性の最高性能を要求しないということでしょう。いうならば、アンプ1台で1コあるいは複数個のSPをドライブするという大時代的思想、もしくは物資欠乏の禁欲的思想よりの自由であるといえましょう。

さて、パワー・アンプは全部「石」、中間アンプは球を使って出力マージンを取り、レベル設定はパワー・アンプ段でやっております。

機の周囲や上には、あっちにAC-SW（4段階切換）こっちにメインVR、あそこにセレクト、あちらにはマイク・コンセント等、まるでタコ足システムのように



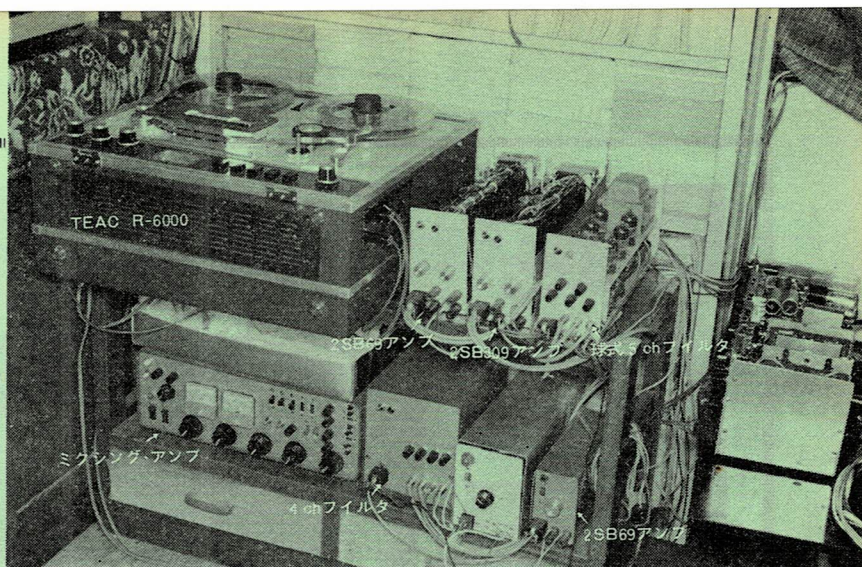
＜2SB69メイン・アンプの左側面＞

が、使用してみると意外と便利、つらつら考えると集中制御のハシクレであるわけです。AC-SWが4段階になっているのは、10数台のアンプにイッペンに火を入れると、ラッシュのためにサーキット・ブレーカが働くのを防止する意味と、「近藤さんが帰ってくると、まもなくヒューズが飛ぶ」なんて余計な心配をさせない、という語るも涙の配慮のタマモノです。

ここで、アンプをもう少し個人的に紹介させてもらいます。

まず、ウナギの寝床のようなパワー・アンプ（ゲルマ）。マージンのある放熱板とPTによって真夏でもビクともしません。出力コンデンサは2段切り換えですが、サージ電流によるV.C.の大振幅を防いでいます。

シリコン・アンプのほうは、4チャンネル部屋です。こちらは少々お熱に強いのでマテメテムみた結果です。ファイナルは今流行の I_c-h_{fe} の良いとやらの石です。私のアンプは細長くてスマートなのが特長ですが、何もフロイド先生の説によったものでない……つまり本



＜TEACテレコとミクシング・アンプ、メイン・アンプ類＞

人が横に長いからではありません。

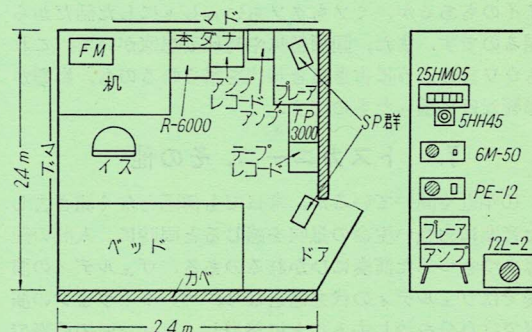
プリアンプは、エミ・フォロEQとコンプリメンタリ出力段と、ちょっとメリットがあります。

フィルタ・アンプは、初めて火を入れた時のすごい高域発振に悩まされ、また特性を出すのに苦労した代物です。何んせバンドが狭いので、1ブロックずつ調整し、組み合わせたものです。ユカイなことには、2台のフィルタは f_c と f 特がピタッと合っています（大事なことです）。

テレコ・アンプ（TP-3000用）は、バイアス電源を安定化したもので、商用電圧のフラツキにもビクともしません。また、バイアスは180kc、ひずみが減り、録音補償が少ない（19cmでは6dB/10kc）ので、生録音にはピッタリです。再生部もマランツ形とデラックスです。R-6000とTP-3000はオール球。AMPEX だってプロ用は球ですよ。

6. ヤブニラミ文明批評の巻

日本のオーディオ水準はどうなのだろうと考えた。これがオーディオ外の分野、しかも、時代の最尖端をゆく分野では、諸外国に何年か遅れていると感じるのは私だけではあるまい。ブリューエル・ケアをのぞき、テクニクスをのぞき、そして感じることは、物の考え方が根本的にちがうように思うし、それが源動力となって進歩を支えているように感じられるのである。結局コチ



＜リスニング・ルーム間取り図＞



4畳半に5チャンネル5ウェイを詰めこむとなると、スピーカ・システムの配置はこうに苦心する。低音用スピーカはテレコの下に置いてある。

ラのは仏作ってタマシイ入れずの例のように、イミルだけかな。いろいろ追いつめてみると、部品の層が薄く、信頼に乏しいということになりそう。つまりは基礎研究、開発のスタッフが不足といえそう。

そこへゆくと、現時点ではオーディオ製品で外国品に立派に打ち出せるものがゴロゴロ転ってるネ。サテン、スタックスなどその最たる例。またSPにしたって、キンキラ・カンカンとパチンコやで鳴らせばバランスが取れそうなグッドマン etc. よりも、テクニクスのようにマジメに音を追求したものもあり、その他日本人の感受性にピッタリしたのがいくらでもあるはず。テレコだって同じさ。26K円だせばワウのまったくないテレコ(ソニオマチック6)が手に入るし、アンパックスなんか買うよりTEACの6010のほうがはるか良いですね。ローヤルの中音ホーンはあまりいただけないが、トゥイータはまったく素晴らしい。

オーディオ界には危険な思想家がいて、夜となく昼となくあたかもウワ言のように外国品崇拝をやる。確かにイイのもあるが、ミソもクソもいっしょにした話だから困るのです。また、回顧趣味や時代妄想家もいて、これもウワ言のように古き良き時代を語られるのも、影響が影響だけに困ったものです。

7. トスカニーニ、その他

10年近く聞いているが、今日でも何回となく聞き古した音楽に力強い生命の息吹を感じると同時に、人間の限界をつきつめた演奏にひかれるものがある。ヴェルディの演奏ではヴェルディの代弁者となり、ベートーヴェンの演奏では自分を消し去ることに努力し、ロマン派の演奏ではあたかも自分が作曲者であるかのような演奏。彼をし

て天才というのでしょうか。この文章を読んで下さった方の中に、もしトスカニーニの引退放送の録音をお持ちの方がいらしたら、録音させて下さいませんか。

いつもトスカニーニばかり聞いてはいません。生理的要求(?)から、高城先生が録音Aなる評をつけたレコードを買ったり、テープを聞いたり、自分の録音したテープを聞いたり、さまざまです。シャルランのレコードが4枚ばかりありますが、あのキメの細かさは、シャルランの音楽性が伝わってくるようで大変好きです。

8. 愛機紹介

プレーア：ステレオになってからMC1本ヤリ。F-45よりサテンM2, M3, M7×2と進み、その間友人にも大分推したサテン。サテンより感謝状の1枚ぐらいいもらなくては！……。今欲しいのはM8、でも高くて手が出ません。デノンのDL-103がありますが、立ち上がりが甘いのと、始めからf特が出てないので余り使っていません。モノはスタックスの回転針、動作はすばらしく安定です。ターンテーブルはCECのFR-160。少々古いですが、まだ使えます。

テレコ：生録音には38cm/secのホームTP-3000。ハイのび、音の安定性の点で38cmはいいですね。ただ、このデッキ、ジョーブなテープでないとイッペンにワカメにしまいます。

Basic-RecorderにはTEACのR-6000。使ってあまりにも快適なので、ウレシクなります。これ使うと、ワン・モータはアホらしくて……。薄手のテープでもワカメにしない点は立派です。4トラのテープでも、聞きたくない部分はサッと早送り、巻きもどしても、また巻き取ってしまいますが、この1年間の経験ではまったく

大丈夫です。前に 263D を使いましたが、ピーク性のワウ・フラッタが多く、聴いてイライラするので半年で放しました。

旅行にレジャーに、音のアルバム作りに大変重宝しているのが、ソニーのカセットです。朝、目をさましてボンとボタンを押すと、サッと好きな音楽が流れてくる点はウレシイですね。実は田辺秀雄先生の影響でして（スグエイキョウサレチャウノデス）。

ヘッドホン：スタックス SR-1 を 2 本使ってますが、私の再生音の標準としています。ただ振幅が取れないのと、遠近感に乏しいウラミがありますが、音質はスバラシイです。

9. 5 チャンネル 5 ウェイあれこれ

大分後回しになりましたが、システム全体について書きます。実は低音部が共通……3D です。

さて、3 チャンネルでもレベル合わせにフーイーっているのに、5 チャンにすると数倍むずかしい。常に標準

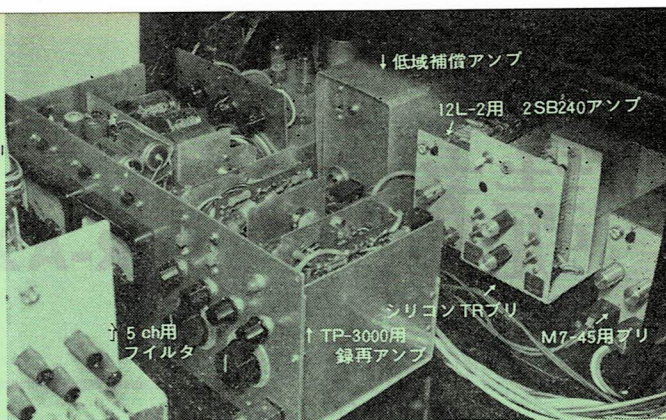


＜CEC FR-160+AT-1501, MA227 のプレーア＞

音源と比較してレベルを決定しなければならないが、これと関係して位相合わせも大切である。

片チャンネル SP 一対ずつ（トゥイーターとスコーカのように）OSC で位相を合わせ、次に左右の SP 一対ずつ（Ex トゥイーターとトゥイーター）真中で音が合うようにレベルや位相を合わせなければならなかった。かれこれ 1 カ月近く要したが、バランスが取れるに従って見（イヤ聞き）ちがえるばかりの音が出てきた。ピストン・モーションの帯域を利用したためか、左右混合にすると、ピタッと音が真中で合ってくる。今までの 3 チャンと比べると、月とスッポン。トランジェント特性、ひずみ特性が圧倒的に向上した。Command Tape に “Persuasive Percussion (9.5cm)” があるが、Tape であることと相まって、ボンゴ、ドラム等たたいた瞬間の立上りと、その後の振動ぶりが迫真化して聞こえてくる。

只今のところ、SP 配置がバラバラなので、小編成のオケ再生には音像がボヤケル点がありますが、大編成のオケにはもってこいです。チュッティが美事に再現されます。また *ff* のエネルギーは強靱であり、ちっぽけな振動板 1 枚では到底味わえないものを持っています。



＜5ch 用フィルタ、他のアンプ類＞

10. これからのこと

中音の 6M-50 は気温の変化を受けやすく、すぐビッテしまうし、また 1kc 以上は音が悪くて使えない代物なので、何とかせんにヤイカンと思っています。ナシヨの 50-HM15 あたりをネラッています。また PE-12 はトランジェント特性は抜群ですが、やはりエネルギーとして不足気味であり、このボックスも十分とはいえないので、こちらも何とかせんにヤイカンと思っています。いずれこれを 2 本ずつパラにして使う予定です。

その他 M8 を手に入れたいとか、PW-38C に変え、ボックスもそれ相応（今の 12L-2 だけ前時代の遺物なので）にしたい等、望みはつきずだが、〇は無しといったところ。オーディオ外では、お客様にはカクテルを作って差し上げ、メニューに従って音を出すとか、自動的に電灯を徐々に消すとか、音と写真のアルバムを使う等、まァいろいろあらーなというわけです。

これはプランだけですが、真にオーディオの好きな連中が集まって、月 1 回各自の家でオーディオ・パーティを開く会も考えています。いかがですか。

サラリーマンともなれば、時間的余裕の無いのが悩みで、アンプ作りに大変時間を要します。こんな時、助手がいれば……と考えることもあります。

11. 最後に

大変乱暴な文章で申しわけありません。世に、影響力の絶大なることより岩波文化なる言葉がありますが、オーディオの世界にはラ技文化があるように思うのです。ラ技を 8 年間も読むと、僕みたいなのが出来上るのですね。皆様精々気をつけて下さい（Hi）。最後に孔子様はウマイことをいいました「少年老いやすく、学成りがたし……」月日のたつのは早いもの、精々今後もセッサタクマ、いや青い小鳥を求めて野原をうろつき回ることでありましょう。

大事な事を書き忘れました。私のシステムの音をこの 3 カ月間約 10 人近くの人に聞いてもらってきませんが、さすが！ という人もいれば、輝き過ぎているとか、タイシタこと無いとか讃否両論で困っています。

音は主観的要素の大変強いもので、各自異なったイメージを持っているようです。できるだけ多くの人に聞いてもらって、その中より真実を拾い出して改良して行きたいと思っています。（以上）